

第七號

六月三日

8280

整發第四一號

陸軍軍需審議會ニ於テ審議ノ件覆申

昭和十三年六月十七日

陸軍軍需審議會長 東條 英

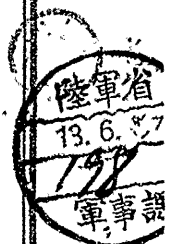
陸軍大臣 板垣 征四郎 殿

左記ノ件別冊ノ通審議決定セシニ付覆申ス

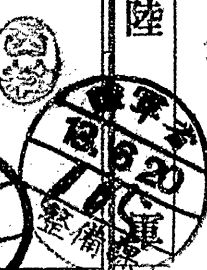
左 記

九八式輕爆擊機假制式制定ノ件

陸軍軍需審議會 第八八八號



陸



6280

極
秘

陸軍軍需審議會幹事會經過ノ概要

昭和十三年六月四日
陸軍軍需審議會

昭和十三年六月一日 於濱松陸軍飛行學校

二 議 題 九八式輕爆擊機假制式制定

三 出席者

幹事長

歩兵中佐

山田清一代理
眞田稷一郎

幹事

砲兵少佐

西村乙嗣

航空兵中佐

川嶋虎之輔

航空兵少佐

楠二郎

同

有森三雄

航空兵中佐

谷口初藏

航空兵大佐

緒方辰義

航空兵少佐

原弘

航空兵中佐

磯矢伍郎代理
三輪研介

説明者

航空兵中佐	若松七郎代理
原田貞憲	
歩兵中佐	青木一枝代理
天野正一	
同	中山源夫
歩兵少佐	幸道貞治代理
増田繁雄	
航空兵大佐	緒方辰藏
同	繪野澤靜一
航空兵中佐	駒村利三
航空兵中佐	信濃成繁
陸軍技師	阿部千代次
同	小林茂
航空兵少佐	原敬三郎

四 審議ノ概要

第一次 飛行機(實物)概要ノ説明、質疑及離陸狀況ノ供覽

第二次 左記ノ如ク爆撃實施ノ供覽

第三回	第二回	第一回	飛行回数	彈種	彈數	投下高度	投下法
五十珎	百珎	十五珎					
六發	三發	二〇發					
二、〇〇〇米	一、〇〇〇米	一、〇〇〇米					
水平連續	急降下連續	急降下連續					

第三次 飛行機(實物)細部ノ説明、質疑

第四次 室内ニ於ケル議事

(一) 審査研究經過並成績ノ概要説明

(二) 飛行機細部ノ説明

③質疑、應答

五 第一次乃至第四次ノ審議ヲ終リタル後幹事會ハ全員一致ヲ以テ

本機ハ要求セラレタル諸條件ヲ充足シ輕爆撃機トシテ適當ナリト判決セリ

同時ニ參謀本部側ノ要望ニ就キ幹事會ハ左ノ如ク意見ノ一致ヲ見タリ

(一) 爆撃及後下方射撃性能ノ向上ニ就テハ設計ヲ根本的ニ改ムルコトナク可能ノ範圍内ニ於テ研究ス

(二) 將來狀況之ヲ許サハ可變節「プロペラー」裝備トスルコト

(三) 川崎製飛行機ハ過去ニ於テ「八八偵」ヲ除キ殊ニ發動機ニ於テ其ノ成績十分ナラサリシ點アリ

本機ニ就テモ特ニ發動機改造後ノ信賴性ニ就テハ引續キ十分ナ

ル試験研究ヲ行フト共ニ同社ノ指導ニ關シテハ今後共最善ヲ期スルコト

六 委員會ハ書類ノ持廻リニ依リ實施スル案全員一致ヲ以テ可決ス

以上

9880

秘

用済后焼却

九八式軽爆撃機假制式制定ノ件

昭和十三年六月

九八式輕爆擊機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十一年五月五日航秘第五五一号新輕爆擊機試作ニ関スル
 件達ニ基キ試作セル輕爆擊機ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判
 定スルニ在リ

第二 判 決

本機ハ要求セラレタル諸條件ヲ充足シ輕爆擊機トシテ適當ナ
 ルモノト認ム

第三 審査一般成績

- 一 本機ノ構造諸元及飛行性能別紙ノ如シ
- 二 行動半径
 行動半径ハ要求條件ヲ充足シ爆彈三〇〇觔ヲ搭載シ五〇〇

- 料ニシテ行動ノタメ一時間ノ餘裕ヲ有ス、尚標準爆撃量ニ於テ燃料ヲ満載セル場合ニハ約八〇〇料迄延長シ得、且一時間ノ餘裕ヲ有ス
- 三、操縦性能
安定良好且操縦一般ニ容易ニシテ操縦性能良好ナリ
- 四、爆撃性能
爆撃性能ハ良好ニシテ急降下竝水平ノ單發竝連続投下ハ容易ナリ
- 五、自衛性能
自衛性ハ適良ナリ
- 六、構造強度
陸軍飛行機構造假規程ニ基キ製作セラレ構造適當ニシテ強度十分ナリ
- 七、耐久性及取扱
耐久性ヲ有シ取扱容易ナリ

八、本邦軌道ニ依ル鐵道輸送可能ナリ

第四 審査經過ノ概要

一 第一次

昭和十一年二月四日航技秘第四七号ヲ以テ中島、三菱、立川、川崎四社ニ對シ新輕爆擊機研究上ノ參考資料ヲ與ヘ新輕爆擊機ノ設計研究ニ着手シ同年四月基礎設計ノ審査ヲ行ヒ同年五月五日航秘第五五一号新輕爆擊機試作ニ關スル件達ニ基キ三菱及川崎両社ニ各二機ノ試作ヲ命シタリ

爾後所要ノ設計試作指導ヲ実施シ昭和十二年三月末ヨリ五月上旬ニ亘リ逐次試作機完成セシヲ以テ當所及浜松陸軍飛行學校ニ於テ基本審査ヲ行ヒ昭和十二年六月第一次審査ヲ終了ス

二 第二次

第一次審査ノ結果「キ三十二」ニ就キテハ推進機關並爆擊裝

備等ノ改善ヲナシ審査続行スルニ決シ同年七月川崎ニ對シ
増加試作ニ関シ指示シ五機ノ試作ニ着手ス

三、爾後支那事変ニ際會シ極力製作及審査ヲ促進シ昭和十三年
一月上旬ヨリ下旬ニ亘リ逐次二機完成セシニ就キ第三号機
ヲ以テ各務原及立川ニ於テ各種基本試験ヲ実施シ、尚第二
号機ヲ以テ一月立川「ハイラル」間耐寒飛行並「ハイラル」
ニ於ケル耐寒試験ヲ実施ス、引続キ第三号機ヲ以テ浜松陸
軍飛行學校ニ於テ浜松陸軍飛行學校職員参加ノ下ニ爆撃及
射撃ヲ実施シ又第四号機ヲ以テ飛行性能試験ヲ行ヒ昭和十
三年四月概ネ審査ヲ終了シ制式機トシテ適當ト認ムルノ判
決ヲ得タリ

四、推進機関特ニ發動機ニ関シテハ気化器ノ順應性、振動竝耐久
性ニ就キ概ネ五期ニ亘リ改修ヲ加ヘタル結果昭和十三年四
月前記諸矣ハ著シク改善セラレ實用ニ適スヘキ判決ヲ得タ
リ

別紙第一

一、九八式輕爆撃機構造ノ概要、諸元及飛行性能
構造ノ概要

本機ハ洋中翼片持式單葉複座機ニシテ機體ハ「アルミニウム」合金ヲ主材トシ一部ニ鋼ヲ使用シ胴体前端ニ九八式八〇〇馬力發動機一基ヲ装着シ「プロペラ」ハ金屬製三翼分離式トス 其ノ構造ハ寫真第一、第二ノ如シ
二、本機ノ主要諸元次ノ如シ

全幅	(米)	一五、〇〇〇
全長	(米)	一一、六四〇
全高	(米)	三、八九〇
主翼面積	(補助翼共)(平方米)	三四、〇〇〇
空虚重量	(磅)	二、三九二
搭載量	(磅)	一、一四七
	常時燃料満載	一、三七〇
全備重量	(磅)	三、五三九
	常時燃料満載	三、七六二
爆彈三〇〇磅ヲ標準トシ四五〇磅マテ搭載シ得		

本機ニ装着ノ發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシ
 テ其ノ主要諸元次ノ如シ

重 量 (<small>陸</small>)	五二五	全 高 (<small>米</small>)	一、〇〇〇	全 幅 (<small>米</small>)	〇、七七〇	全 長 (<small>米</small>)	二、一六五	與 壓 高 度 馬 力	<table border="1"> <tr> <td>最 大</td> <td>三、八〇〇</td> <td>米 ニ テ</td> <td>九、五〇</td> </tr> <tr> <td>正 規</td> <td>四、五〇〇</td> <td>米 ニ テ</td> <td>七、七五</td> </tr> <tr> <td>最 大</td> <td>八、五〇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>正 規</td> <td>七、〇〇</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	最 大	三、八〇〇	米 ニ テ	九、五〇	正 規	四、五〇〇	米 ニ テ	七、七五	最 大	八、五〇			正 規	七、〇〇			地 上 馬 力	<table border="1"> <tr> <td>正 規</td> <td>七、〇〇</td> </tr> <tr> <td>最 大</td> <td>八、五〇</td> </tr> </table>	正 規	七、〇〇	最 大	八、五〇	最 大 回 轉 數 (<small>每 分</small>)	二、〇〇〇	正 規 回 轉 數 (<small>每 分</small>)	一、八五〇	減 速 比	直 結	「 <small>プロペラ</small> 」 軸 回 轉 方 向	飛 行 方 向 ニ 見 テ 右 廻 リ	壓 縮 比	六・五	型 式	十 二 気 筒 V 型 液 冷 式	名 稱	九 八 式 八 〇 馬 力 發 動 機
最 大	三、八〇〇	米 ニ テ	九、五〇																																										
正 規	四、五〇〇	米 ニ テ	七、七五																																										
最 大	八、五〇																																												
正 規	七、〇〇																																												
正 規	七、〇〇																																												
最 大	八、五〇																																												

0892

四、本機ノ飛行性能次ノ如シ
 一、水平飛行速度

之、上昇時間

高度(米)	最大水平速度(米/時)
一、〇〇〇	三七九
二、〇〇〇	三九四
三、〇〇〇	四〇九
四、〇〇〇	四二三
五、〇〇〇	四二一

高度(米)	上昇時間
一、〇〇〇	二分一(秒)
二、〇〇〇	四分一二(秒)
三、〇〇〇	六分九(秒)
四、〇〇〇	八分一九(秒)
五、〇〇〇	一分五五(秒)

3. 上昇限度 (米)

理論 九三〇
實用 八九二〇

五. 主要裝備

1. 射撃裝備

前方用八九式固定機関銃 甲一組 (実包二〇〇)
後方用八九式旋回機関銃 (特) 一組 (実包五四〇)

2. 爆撃裝備

標準爆弾搭載量 三〇〇 盃
但シ標準行動半径 = 於テ所望 = 應シ總量四五〇 盃迄搭載
スルコトヲ得

搭載彈種 一五 盃、五〇 盃、一〇〇 盃ノ三種トス

3. 無線裝備 一式

4. 寫真裝備 (特別裝備) 一式

別紙第二

陸軍航空本部兵器研究方針ノ抜萃

項目	方針	摘要
<p>輕爆撃機</p>	<p>一、主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機並大ナル威力ヲ要セサル諸施設ノ破壊ニ用ウ</p> <p>二、速度甚大水平及急降下爆撃ニ適セシム</p> <p>三、行動半径ハ標準爆撃量ヲ搭載セルトキ少クモ五〇料トシ爆撃量ヲ減シタル場合六〇料ニ延長シ且何レノ場合ニ於テモ行動ノ為一時間ノ餘裕ヲ有セシム</p> <p>四、爆撃機搭載量 彈種一〇〇挺爆撃以下搭載量三〇〇</p>	<p>五</p>

項目	輕爆撃機
方針	<p>五、常用高度 四五〇呎ニ増加シ得シム</p> <p>四、徑四〇呎以下ナル場合ニハ彈量</p> <p>徑ヲ以テ標準トス。但シ行動半</p> <p>徑四〇呎米乃至四〇〇呎米トス。</p> <p>但シ自衛上更ニ一層高空ニ於テ</p> <p>行動シ得シム</p> <p>六、主要裝備</p> <p>1. 射撃裝備 固定機關銃 一 旋回機關銃 一</p> <p>2. 無線裝備 一式</p> <p>3. 寫真裝備 一式</p> <p>但シ爆彈ノ一部ト交換裝備トス</p>
摘要	

寫眞第一



0896

4680

秘

用濟后燒却

九八式輕爆擊機構造要領

昭和十三年六月
陸軍航空本部

九八式輕爆撃機構造要領

第一 用途

一、本機ハ主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機竝大ナル威力ヲ專セサル諸施設ノ破壊ニ用ウルモノトス

第二 構造機能ノ概要

二、本機ハ準中翼片持式單葉複座機ニシテ九八式八〇〇馬力發動機一基及「プロペラ」一本ヲ裝ス

三、本機ノ機体ハ胴体、翼組、尾翼、降着装置、操縱装置其ノ他胴体内外附屬諸装置等ヨリ成リ一部ニ鋼及「マグネシウム」合金ヲ用ウル外主トシテ「アルミニウム」合金ヲ用テ各操縱翼ハ羽布張トス機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ亦必要ニ應シ偽裝ノ爲塗色スルコトアリ

(4) 胴体ハ「アルミニウム」合金板製ノ縱通材、円框及外鋸ヲ主

杖トスル楕円形張殻式構造ニシテ胴体主体發動機架及胴体内諸装置ヨリ成ル

(1) 胴体主体ハ操縦席、胴体、^{「タンク」}後部同乗席、後部胴体ヨリ成リ操縦席前面ヨリ同乗席前面ニ至ル胴体下面ニハ手動開閉式爆弾倉ヲ有シ操縦席ヨリ後方同乗者席ニ至ル胴体上面ニハ開閉式透明風防ヲ附ス

(2) 胴体内諸設備トシテ操縦席房内ニ操縦装置、^{「照準器」}諸計器、^{「無線電」}無線寫真射撃^{「照準器」}及其ノ他ノ諸計器ヲ備ヘ両座席内ニ照明、冷房ノ諸装置ヲ施ス

(3) 發動機架ハ胴体前端ニ緩衝^{「ゴキヤ」}シ六本ノ「ホルト」ヲ以テ取付ケラレ着脱容易ナリ 發動機架下面ハ後部開閉式ナル通風洞ヲ成シ其ノ前端ニ滑油冷却器及液冷却器ヲ有ス

(四) 翼組ハ片持式單葉ニシテ外翼及中央翼ヨリ成リ之ニ補助發動機架ニハ上面及両側面着脱式ナル發動機覆ヲ有ス

- 翼及下ケ翼ヲ装シ外翼ニハ上反角ヲ附ス
- (1) 外翼ハ二桁式箱型主桁ト張殻式構造ヲ有スル小骨及外板ヨリ成リ其ノ後縁ニハ補助翼及下ケ翼ヲ左外翼前縁ニハ翼鏡一ヲ装シ右外翼前後桁間ニハ燃料「タンク」一ヲ装ス
- (2) 中央翼ハ胴体ト一体ニ構成セラレ前桁ニハ脚柱ヲ取付ケ前後桁間ニハ燃料「タンク」ヲ装ス
- (3) 中央翼ト外翼トハ前後主桁上下笠板部及上下面縦通材部ニ於テ接続「ホルト」ニ依リ結合セラル
- (4) 補助翼ハ左右外翼ニ各一箇ヲ有シ「アルミニウム」合金板製小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布ヲ以テ覆フ
- (5) 下ケ翼ハ「アルミニウム」合金板製小骨及外板ヨリ成リ中央翼及外翼ノ後縁部ニ装着セラレ油圧式手動「ポンプ」ニ依リ作動ス
- (ハ) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定

板及昇降舵、垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル

(1) 水平及垂直安定板ハ三桁式「アルミニウム」合金板製片
持式ニシテ「アルミニウム」合金板張トス

(2) 方向舵及昇降舵ハ「アルミニウム」合金板製桁及小骨
ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布張セルモノニシテ昇降舵及方向
舵ニハ飛行中或ハ地上ニテ調整可能ナル平衡板ヲ装着
シ操舵力ヲ軽減ス

(二) 降着装置ハ脚組車輪及尾輪装置ヨリ成ル

(1) 脚組ハ單脚片持式ニシテ緩衝装置ヲ收容スル鋼管製脚
柱及車輪支持金具ヨリ成リ緩衝装置トシテハ油圧緩衝
器ヲ使用ス

(2) 車輪ハ八六〇×一七五高圧制動車輪ニシテ車輪覆ヲ有
ス尚、車輪支持金具ヲ換装シテ低圧車輪ヲ装着スルコ
トヲ得

(3) 尾輪装置ハ油圧緩衝支柱及尾輪ヨリ成ル

- (木) 操縦装置ハ單操縦装置ニシテ補助翼方向舵昇降舵ノ各操縦装置及下ヲ翼並昇降舵平衡板操作装置ヨリ成ル
- (ハ) 附属諸装置ハ燃料始動及給油装置等ヨリ成ル
- (1) 燃料装置ハ燃料「タンク」送油装置諸配管等ヨリ成ル「タンク」ハ四系統ニ分レ第一ハ胴体内操縦席直後ニ第二ハ中央翼内ニ第三ハ胴体内爆弾倉前方ニ第四ハ右外翼内ニ裝備サレ何レモ「アルミニウム」合金板製トス
- 送油ハ「ポンプ」式トス
- (2) 始動装置ハ機上始動機トス
- (3) 給油装置ハ發動機ノ油「ポンプ」滑油「タンク」同諸配管ヨリ成リ滑油「タンク」ハ發動機前端ニ装着ス
- 四、本機ノ發動機ハ九八式八〇〇馬力十二気筒V型液冷式ニシテ燃料供給並始動装置ヲモ附属セシメ得ル構造ヲ有ス其ノ主要諸元及性能次ノ如シ
- (1) 諸元

五、⁷プロペラハ金屬製三翼分離式ナリ

(四) 性能

気筒径	一六〇	概
衝程	一七〇	概
重量	約五二五	斤
発動機ノ全長	約三一六	五米
プロペラ ⁷ ノ回転方向(飛行方向ニ視テ)	右廻リ	
燃料及同消費率	航空八七揮発油ヲ用ル	二七〇 ^{馬力} 時ヲ標準トス
滑油及消費率	航空機用ヒマシ油ヲ用ル	一〇 ^{馬力} 時ヲ標準トス
正規回転数	一八五〇	回転/毎分
最大回転数	二〇〇〇	回転/毎分
正規地上馬力	約七〇	馬力
最大地上馬力	約八五	馬力
正規與圧高度馬力(高度四五〇米ニテ)	約七七	五馬力
最大與圧高度馬力(高度三八〇米ニテ)	約九五	馬力

六、裝 備

(イ) 射撃装置

八九式固定機関銃 甲一銃突包ニ〇〇發環型照準器
一組並八九式旋回機関銃(特)一銃突包五〇〇發ヲ裝備ス

(ロ) 爆撃装置

懸吊投下及照準ノ諸装置ヨリ成リ三〇〇趾ヲ標準トシ総
重量四五〇趾以内ノ爆彈ヲ搭載シ水平及急降下ニ於ケル
單飛並連續投下ヲ行フコトヲ得

(ハ) 無線装置

一組ヲ裝備ス

(ニ) 寫直装置

一組ヲ裝備ス

(ホ) 計測器装置

回轉計一箇、速度計二箇、高度計二箇、旋回指示器一箇
羅針盤二箇、飛行時計二箇、昇降計一箇、人工水準器一
箇、人工指向器一箇、水溫計一箇、吸入壓力計一箇、燃
料油圧計一箇、滑油油圧計一箇、滑油油^温度計一箇、吸気

ポンプ一箇等ヲ装着ス

(ハ) 電気装置

機上電気器具一組及照明用諸灯器ヲ装着ス

(ト) 各種附属品

落下傘二箇、九口式小型照明弾五箇等ヲ装着ス

七、其ノ他必要ナル事項

(イ) 本機ハ本邦軌道ニ依ル輸送可能ナリ

(ロ) 本機ハ機体構成ノ各部結合ハ鉸又ハ「ホルト」止ナルヲ以テ部分的交換及修理等容易ナリ

第三 主要諸元

全幅	約一五〇〇米
全長	約一、六四〇米
全高	約三、八九〇米
主翼面積(補助翼共)	約三四〇〇〇平方米

9060

爆撃装置		火器	爆弾	乗員	滑油	燃料	搭載量	全備重量	空虚重量
一式	組								
	組	固定機関銃 旋回機関銃		二名	常満 時約 三六五 分	常満 時約 九一五 分	常満 時約 一四七 分	常満 時約 三五六 分	約 三三九 分
	組		約	約	約	約	約	約	約
	式		三 〇 〇 斤	一 四 〇 斤	二 六 斤	四 六 六 斤	一 三 七 〇 斤	三 七 六 二 斤	六 三 九 二 斤

無線装置

寫真装置

計測器装置

電気装置

各種附属品

主要性能

上昇限度(理論)

上昇限度(実用)

上昇時間 三〇〇〇米迄

水平飛行速度

一、〇〇〇米ニ於テ

二、〇〇〇米ニ於テ

三、〇〇〇米ニ於テ

四、〇〇〇米ニ於テ

五、〇〇〇米ニ於テ

一式 一式 一式 一式 一式

計約二一五匹

九、三〇〇米

八、九二〇米

六分〇九秒

三七九米/時

三九四米/時

四〇九米/時

四二三米/時

四二一米/時